

The image shows a large vertical sign. The main text '充実感' (fulfillment) is written in large, bold, yellow characters with a black outline, set against a solid blue background. To the right of this, there is a vertical column of text in white on a red background, reading '子どもの姿で捉える' (capture the image of a child). A small red banner with the number '10' is visible on the far left edge.

「幼稚期の育ちが、小学校の学習にどのようにつながるのかがよく分からない」と感じている方は、少なくないかもしれません。まさに、見えにくい幼稚教育の成果を、幼小の関係者が共に捉えていく過程は、架け橋づくりグラムの肝となる取組みですし、その

実際に、手掛かりとしてうまく活用したいのが「幼稚期の終わりまでに育つてほしいう姿「10の姿」」です。本事例の子どもたちは、あと数日で入学式を迎える年長児です。この子たちの遊びが進展していくプロセスを、例えば10の姿(1)健康な心と体(充実感)をも

つて自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもつて行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる)の視点で捉えていくとどうでしょう。

最近のA児は決まり場所に決まったメンバーで集い、いつも同じ遊びを繰り返す日々で、夢中になつて遊ぶ

でした。さて、5歳児の「充実感」とはどんな姿と言えるでしょう。「自分のやりたいことに向かう」という育ちは、例えばA児のどんな姿から感じ取ることがで
きるでしょう。そして、その姿を支えていたものとは、どんなことと言えるでしょうか。このように10の姿を



②保育者 「広い所でやってみる？」
A 児 「外はマット濡れちゃうね」
保育者 「濡れないもの考える？」
A 児 「段ボールがいいかなあ？」
B 児 「こういう感じでどう？」



①A児たちは大型積み木の坂道でタオルマットを滑らせて遊んでいました。近頃、遊びが停滞気味だったA児の好奇心の広がりを、保育者はそつと期待します。



あれ？止まつ
ちゃつたね



③ 1時間ほどかけて完成。「よし、できた！行くぞー」勢いよく駆け出すA児たち。製作に関わった友達も、周りで興味津々に様子を伺っていた友達も、向かうは雪の山！（④）

に物足りなくなります
きっと、「みんなで滑
る」という面白さを、
もつと味わい、もつと
面白くしたいはず。そ
う見取った保育者は、そり
A児たちに声をかけま
す(写真②)。遊びは
どんどん進展し、そり
は本当に完成。雪上で
試すことになりました
(写真④)。まだまだ
満足しない A児たちは
あれやこれやときめくに
大忙し。それの改良と
試滑走に明け暮れたの

貴重な資料にもなるでしょう。10の姿には、文字通り幼児の育ちの姿が示してあります。その姿をどう育み、どうつなぐかは、実践者に委ねられています。10の姿が發揮されやすい環境について、幼小それぞれに、再考していくことが求められます。ラムは、**幼小双方の教育の質**をより高め、改善していくための方向改う取組みなのです。

23

発行元
お問合せ先

山形県教育局義務教育課

023-630-3416

教育課 kuraokat@pref.yamagata.jp

※1：本通信における「幼小」は、「幼児教育と小学校教育」の略称として使用